これからの梨の栽培管理について（第３号）

令和３年４月１９日
富山農林振興センター
なのはな農業協同組合

1　梨の開花および生育について

梨の生育は、２、３月が高温であったことから、いずれの品種も過去３０年で最も早い開花となりました。**なお、受粉期間中の４月１０、１１日に産地全域で霜が降り、結実不良が懸念されます。**

令和3年　呉羽地区日本なし開花状況　（吉作平場基準）

品種名	開花始め			満開		
	本年	前年比	平年比	本年	前年比	平年比
幸水	4月7日	▲ 8	▲ 10	4月11日	▲ 8	▲ 10
豊水	4月2日	▲ 6	▲ 12	4月6日	▲ 7	▲ 11
あきづき	4月6日	▲ 6	▲ 9	4月8日	▲ 7	▲ 9
新高	3月31日	▲ 4	▲ 12	4月3日	▲ 5	▲ 12

▲は早いことを示す（例：▲6は「6日早かった」）。

2　１回目摘果作業の留意点

●霜による結実不良の恐れがあることから、１回目の摘果作業は実どまりの状況や果形を十分確認した上で行ってください。

●結実量が不十分な場合は、通常は摘果するような奇形果や傷果等も残し、新梢の過繁茂防止や、樹勢が強くなりすぎないように留意してください。

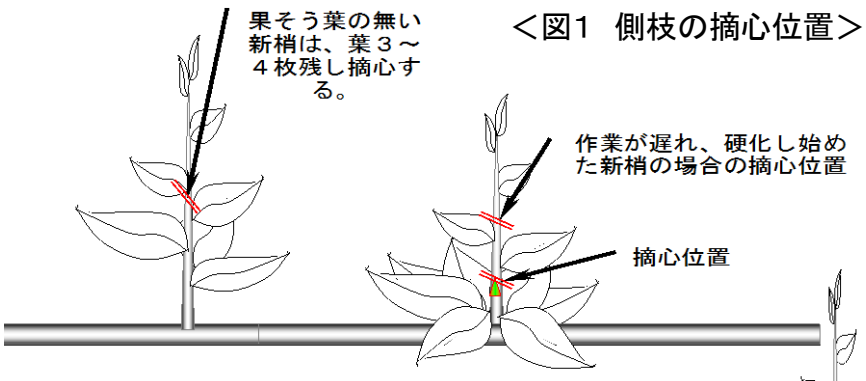
●なお、十分な結実が見込める場合は、満開３０日後を目安に１回目の摘果を終了するよう作業を進めてください。

3　新梢管理について

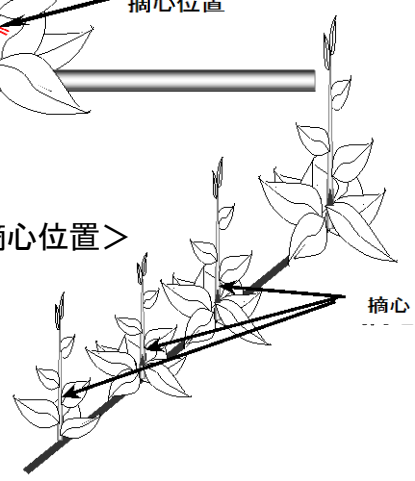
着果が少ない場合は、新梢の伸び出しが例年よりも早くなります。これらについては、過繁茂を防いで日当たりと薬剤のとおりを良くすることと、来年の結果枝育成のため、以下の管理に努めてください。

①側枝は先端付近の新梢１～２本を残して摘心する（図１）。

②予備枝は先端の新梢１本を残して摘心し、一本化を図る（図２）。



＜図1　側枝の摘心位置＞



＜図2　予備枝の摘心位置＞

4　黒星病の発生状況について

① 落葉からの子のう胞子飛散

黒星病の感染源の一つである落葉からの子のう胞子は、落葉処理園地、モニタリング調査（人為的に落葉をかきあつめ胞子を飛散しやすくしている調査）とも、３月からの飛散量は少ない状況です。

なお、**胞子飛散は通常５月末まで続くため、今後とも適期防除（間隔の遵守、雨前散布）に努めてください。**

② 気象データによる感染危険度・発病危険度（千葉梨防除ナビより）

本年も千葉県で開発されたシステムを利用して、園地の温度と湿度データから黒星病の感染危険度と発病危険度を数値化（０～９の 10 段階評価：数値が大きいほど危険度が高い）し、情報発信を行っています。

４月６日～14 日のうち感染危険日は４月１４日で、危険度は１でしたが、このことによる潜伏期間を経た 15 日後（４月 24 日～29 日）の発病危険日は無い予想です。（昨年のこの期間の感染危険度、発病危険度ともに０回）。

☆重要☆：黒星病芽基部病斑や果実、葉への発病が見られた場合、速やかに除去し園地外で適切に処分してください。

5　これからの防除について

☆防除は「降雨前」、SSは「低圧、低速、全列走行」を心掛けましょう

回数	散布月日	薬剤名と濃度	散布量	主な対象病害虫	防除実施日
特	４月２２～２８日頃	コンフューザーＮ　１５０本/１０ａ		ﾘﾝｺﾞｺｶｸﾓﾝﾊﾏｷ、ﾓﾓｼﾝｸｲｶﾞ ﾅｼﾋﾒｼﾝｸｲ	
5	４月２３～２５日 （落花１０日後）	オーシャイン水和剤(DMI)　４，０００倍 トレノックスフロアブル　５００倍 ハチハチフロアブル　２，０００倍	３００ ﾘｯﾄﾙ	**黒星病**、赤星病、心腐れ症 （胴枯病菌） ﾆｾﾅｼｻﾋﾞﾀﾞﾆ、ｸﾜｺﾅｶｲｶﾞﾗﾑｼ ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	
6	５月１～３日 （小豆大）	ユニックス顆粒水和剤 47　２，０００倍 トレノックスフロアブル　５００倍 サイアノックス水和剤　１，０００倍	３００ ﾘｯﾄﾙ	**黒星病**、赤星病、黒斑病 心腐れ症（胴枯病菌） ｼﾝｸｲﾑｼ類、ﾊﾏｷﾑｼ類 ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	
7	５月９～１１日	デランフロアブル　１，０００倍	３００ ﾘｯﾄﾙ	**黒星病**、赤星病、輪紋病 心腐れ症（胴枯病菌）	
8	５月１７～１９日	ベルクートフロアブル　１，５００倍 ファルコンフロアブル　６，０００倍	３００ ﾘｯﾄﾙ	**黒星病**、輪紋病、うどんこ病 ﾊﾏｷﾑｼ類、ケムシ類	
9	５月２７～２９日	オキシラン水和剤　６００倍 アプロードフロアブル　１，０００倍	３００ ﾘｯﾄﾙ	**黒星病**、輪紋病 **カイガラムシ類幼虫**	

☆防除開始時間は午前5時以降としてください（午前4時台にSSのファンを回さないでください）。

① **散布に当たっては、濃度や対象病害虫など、農薬容器のラベルを必ず確認してください。また、周囲の他作物や住宅等への飛散防止に努めてください。**
② **防除間隔は、１０日以上空かないように注意してください。**
③ **開花期頃にハマキムシ類の被害が多かった園地では、７回目の防除にカスケード乳剤（２，０００倍）を混用してください。**
④ アブラムシ類の発生（葉を内側に巻いて加害する）が見られたら、早めにアドマイヤー水和剤（２，０００倍）を散布してください。
⑤ カメムシ類の常発園、シンクイムシ類多発園ではアクタラ顆粒水溶剤（２，０００倍）を散布してください。

6　コンフューザーＮは確実に設置しましょう！

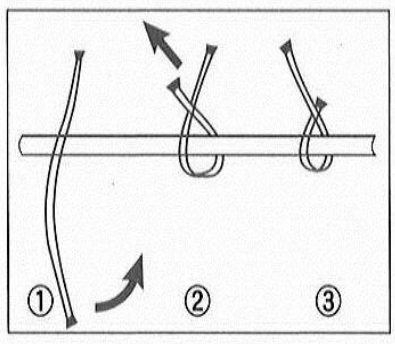
昨年、シンクイムシ類の被害果実が発生した園地や、今年の開花期頃にハマキムシ類の被害が多かった園地では、今後も多発する恐れがありますので、**確実に「コンフューザーＮ」の設置をしてください。**

設置方法

1）設置本数：１５０本／１０ａ（**設置本数が少ないと十分な効果が期待できません**）
2）設置時期：４月２２～２８日頃
3）設置間隔：約２．６ｍ間隔（3間植えの園地では**１樹当たり４～４．５本の割合**で設置）

設置上の留意事項

1）**ほ場の外周**は有効成分濃度が薄くなるため、**多めに設置**する（単独園や道路等に面している園では、外周の防風ネットを張り、有効成分の飛散を防止する）。
2）ほ場内に未成木樹や間抜等で樹の植わっていない場所があっても、これらの場所を含めほ場全体に設置する。
3）傾斜地では**斜面上側を多めに**、下側は少なめに設置する。
4）**周辺にモモやウメがある場合には、これらも含めて設置する。**



梨棚の番線に巻きつけてから、一端を輪にくぐらせて固定してください（強く引っ張り固定すると端が切れる恐れがあるので、注意して下さい）。

＜コンフューザーＮの設置方法＞